

兵庫県ラグビースクール連盟 ミニ・ラグビー競技規則(2015-2016 U-12)

下記に定めのない項目については『JRFU競技規則 及び、ミニ・ラグビー競技規則』に準拠する。

更新日：レフリー委員会 2015年 7月16日

項目・学年	低学年(1～2年 / U8)	中学年(3～4年 / U10)	高学年(5～6年 / U12)	
チーム	5人	7人	9人	
	フォワード1、ハーフバック1、バックス3	フォワード3、ハーフバック1、バックス3	フォワード3、ハーフバック1、バックス5	
競技場	フィールド・オブ・プレー及びインゴールの広さは	フィールド・オブ・プレー及びインゴールの広さは	フィールド・オブ・プレー及びインゴールの広さは	
	40m以内×28m以内、インゴールは3m以内	60m以内×35m以内、インゴールは5m以内	60m以内×40m以内、インゴールは5m以内	
ボール	3号以下のボールを使用する(3号も含む)	3年/3号, 4年/4号	4号	
試合時間	10分ハーフ以内(1日の総試合時間は40分以内とする)	15分ハーフ以内(1日の総試合時間は50分以内とする)	20分ハーフ以内(1日の総試合時間は60分以内とする)	
キックオフ	ハーフウェイライン中央においてタップキックからのパスを行う。相手側はハーフウェイラインより5mさがる。オフサイドの解消は、タップキックからのパスを後ろのプレーヤーがキャッチした時点とする。	ハーフウェイライン中央から、ドロップキックまたはプレーキックで行う。相手側の5mラインに達しなくてはならない。達しなかった場合はハーフウェイライン上中央のスクラムから再開する。(日本協会では、パントキックが許されると記載)	ハーフウェイライン中央からドロップキックで行う。相手側の5mラインに達しなくてはならない。達しなかった場合はハーフウェイライン上中央のスクラムから再開する。	
得点後のキックオフ	得点された側のチームがハーフウェイライン中央において、タップキックからのパスとする。	得点した側のチームがハーフウェイライン中央、またはその後方から行う。		
ドロップアウト	ゴールライン中央より5mフィールドオブプレーに入った地点にて、タップキックからのパスを行う。	10mライン上あるいはその後方から行う。		
キック	プレー開始、再開のタップキック以外のキックは禁止(キックが行われた地点で相手ボールのスクラム)	ドリブルはOK		
	地上にあるボールを互いのプレーヤーが走り寄り、相手側に強く蹴り込むキックなどは、時としてボールが相手プレーヤーの顔面および身体に強く当たる事があり危険である。→ PK			
	ミニラグビーにおけるタップキックとは、ボールを地面に置き、いずれかの方向にボールを明確に蹴り進めることであり、手の中のボールをチョンと蹴ることではない。			
	フライキックに関する条文は削除(2015年度より)			
	ダイレクトタッチは10mライン内からのみ許される。10mラインの外からのキックが直接タッチに出た場合は、キックした地点で相手側にスクラムが与えられる。			
スクラム	フロントロー1人で構成する	フロントロー3人で構成する		
	スクラムを組み合う際、双方のフロントローは左右の足の位置をフラット(前後しない)にして、相手の上腕に軽く触れ、その後穏やかに組合う。	フロントローのうち、中央のプレーヤーをフッカー、その両側のプレーヤーをプロップという。		
	お互いのフロントローは左手は相手フロントローの右腕の内側、右腕は相手フロントローの左腕の外側になるようにして、相手フロントローのジャージの背中または脇をつかむ。	フッカーは味方の両プロップの腕の上からその身体に腕をまわして、しっかりと脇の高さか、またはその下をつかまなければならない(いわゆるフッカーのオーバーバインドの組み方。肩口は脇の高さとは認められない)。プロップも同じようにフッカーをつかまなくてはならない。		
	スクラムでは、プレーヤーの習熟度に応じて、頭を組み入れず、お互いの上腕をつかみ合うハンドスクラムを行うことができる。	スクラムを組み合う際、双方のフロントローは左右の足の位置をフラット(前後しない)にして、相手の上腕に軽く触れ、その後穏やかに組合う。その際、お互いのフロントローのうち、左プロップは、左手を相手フロントローの右腕の内側に、右プロップは、右手を相手フロントローの左腕の外側になるようにして、相手フロントローのジャージの背中または脇をつかむ。		
	頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組む。	すべてのプレーヤーが頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組む。「ノンコンテストスクラム」ではあるが、お互いの体重を支え合うように組まなければならない。		
	スクラムを形成するプレーヤーはスクラムが終了するまでバインドしていなければならない。			
	ボール投入は行わず、その代わりにあらかじめプレーヤーの右足元(つま先の前)にボールを保持する。そのボールを右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開とする。	ボール投入は行わず、その代わりにあらかじめフッカーの右足元(つま先の前)にボールを保持する。そのボールをフッカーが右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開とする。	スクラムは「ノンコンテストスクラム」であり、ボールの取り合い、押し合いはなく、ボール投入側が必ずボールを獲得するが、ハーフバックは、スクラムの中央に、まっすぐボールを投入しなければならない。ボール投入側が誤って相手側にボールを蹴ってしまった場合は、そのままプレーを続ける。フッカーは、故意に相手側にボールを蹴りだしたり、自チームオフサイドラインまでボールを掻いてスクラムを終了させてはならない。ボールキープはOKとするが、速やかにヒールアウトし、故意に長くキープしてはならない。	
	防御側のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1m以上離れるプレーヤーはハーフバックではなく、バックスとみなされる。	スクラムが組まれるとオフサイドラインが生じる。 ①防御側のバックスのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方のプレーヤーの一番後方の足から3m下がったゴールラインに平行な線である。 ②防御側のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1m以上離れるプレーヤーはハーフバックでなく、バックスとみなされる。その場合のオフサイドラインは上記①が適用される。一旦、①で定められたオフサイドラインに下がったハーフバックはスクラムが解消されるまで、そのオフサイドラインを越えてプレーすることはできない。	スクラムが組まれるとオフサイドラインが生じる。 ①スクラムに参加しないプレーヤー(ハーフバックを除く)の双方(攻撃側、防御側)のオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方のプレーヤーの一番後方の足から3m下がったゴールラインに平行な線である。 ②スクラムにおいてボールを投入しない側(防御側)のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方の一番後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1m以上離れるプレーヤーはハーフバックでなく、バックスと見なされる。その場合のオフサイドラインは上記①が適用される。一旦①で定められたオフサイドラインに下がったハーフバックはスクラムが解消されるまで、そのオフサイドラインを越えてプレーすることはできない。【例外1】防御側がボールを獲得した場合、①まで下がった防御側のハーフバックは、獲得したボールをプレーするためにオフサイドラインを越えてプレーすることが許される。	
防御側のバックスのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの後方の足から3m下がったゴールラインに平行な線である。		オフサイドラインはスクラムが終了するまで解消されない。スクラムはボールを獲得した側のハーフバックがボールに触った時点で終了する。【例外2】スクラムに投入されたボールが、スクラムに参加していないプレーヤーのオフサイドラインに偶然達した場合、スクラムは終了する。		

スクラム	スクラムにおいてオフサイドラインの解消は、次の時点とする。 ①ボール投入側のハーフバックのパスを、ボックスのプレーヤーがキャッチした時点とする。 ②ハーフバックがパスしたボールが地面に落ちた時点とする。 ③ハーフバックがパスしたボールが、ハーフバックに一番近いボックスを越えた時点とする。	スクラムにおいてのオフサイドの解消は、ボール投入側のハーフバックのパスをした時点とする。	スクラムへのボールの投入は、ハーフバック行う。ハーフバックは、【例外2】の場合を除き、いかなる場合でもスクラムから出てくるボールを扱う最初のプレーヤーでなくてはならない。	
			ハーフバックは、あたかもボールに触れたかのようなそぶりやボールに触れずに時間を空費する行為をしてはならない。	
	ハーフバックがパスしたボールをボックスがノックした時は、相手ボールのスクラムとする。	スクラムからのボールをハーフバックがパスをせずに直接キックすることを禁止する。相手ボールのFK	スクラムから出たボールをハーフバックが「足」で止めるプレーが散見されるので、コーチは日頃の練習で手でプレーをするよう指導をお願いします。オフサイドの解消はあくまでもボールを「手」で触った時点である。	
	スクラムでのサイド攻撃はNG(スクラムハーフは、必ずパスをする。) 相手ボールのFK		スクラムでのサイド攻撃はOK	
ラインアウト	ラインアウトは行わない。	ラインアウトは以下のように行う。なお、ラインアウトにおけるジャンパーに対するサポーターイングプレーは禁止とする。		
	ボールがタッチになった場合、タッチになった地点がゴールラインから5m以内の場合はゴールラインより5mの地点より、それ以外はタッチになった地点より、投入側のプレーヤーが味方側にパスを行う。	①ボールがタッチになった場合、ラインアウトによって試合を再開する。②ボール投入は、ボールがタッチになった地点から行う。ただし、ゴールラインから5m以内ではラインアウトは行わない。③ラインアウトに並ぶプレーヤーは1チーム2人である。先頭のプレーヤーはタッチラインから3m以内に立ってはならない。最後尾のプレーヤーはタッチラインから8mを越えて立ってはならない。④ボールを投入するプレーヤーの相手は、ラインアウトに近接して、タッチラインから3mの以内の位置にいないといけない。⑤双方のプレーヤーの2つのラインの間には明確な空間(1m)がなくてはならない。⑥ラインアウトが終了するまで、ラインアウトに参加していないプレーヤーはラインオブタッチから少なくとも5mは下がって立なくてはならない。⑦ボールが8mを超えて投げ入れられた場合、投入を再びやり直す。		
	その際相手側はボールがタッチになった地点より3m下がりボールの投入を妨害してはならない。	ボールの競い合いはなく、必ずボール投入側がボールをとる。ボールをとったプレーヤーは必ずハーフバックにボールをパスしなくてはならない。(日本協会はジャンプして取ると記載)	クイックスローイングは認めない(中、高学年)	
	日本協会のルールには、投入の方法、解消のタイミング等の記載は無いが、プレーヤーの安全等を考慮し、以下の通り定める。 ・ボールの投入方法：ゴールラインに平行、もしくは自陣側に投入する。必ずしも3m以上投げ入れる必要は無い。また、走り込んでパスを受けてはならない。 ・解消のタイミング：投入側の味方側の手に触れた時点でオフサイドの解消とする。	ハーフバックがボールをパスした時点でラインアウトは終了する。 (運用:ラインアウトが解消されるまでプレーヤーはその位置にとどまる。)	ラインアウトは次の場合に解消する。①ボールをもったプレーヤーがラインアウトの列から離れたとき。②ボールまたはボールをもったプレーヤーが3mラインとタッチラインの間、あるいは8mラインを越えて移動したとき。③ラインアウトでモール、ラックができた場合、その密集に参加しているすべてのプレーヤーの足がラインオブタッチを越えて移動したとき。④ラインアウトの列から自陣方向にパス・キック・タックルされたボールにハーフバック役のプレーヤーが触れたとき(以下運用:またはパス・キック・タックルされたボールが地面に触れたとき。)	
コンバージョンキック	コンバージョンキックを適用しない	ミニラグビーはコンバージョンキックを適用しない	各協会主催の試合規定に準ずる。※コールドポストの有無によってはコンバージョンキックを適用する。(価値：2点)	
不正なプレー	危険なプレー、不行跡 (a) 防御の際に、相手をしっかりバインドせずに振り回す行為。(b) ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりする行為。(c) フェンドオフ(腕を横に振り、相手を払い除けるプレー)。(d) モール・ラックを崩す行為。(e) 頭部を相手に打ち付けるような姿勢で突進する。(f) 安全が確保できないような体勢でボールを拾う行為。(g) 相手に怪我をさせるような行為。(h) 地上にあるイーブンボールを相手陣に強く蹴り込む行為。※これらの行為は、実際に起きた場合だけではなく、その危険性が予見されればファウルプレーである。レフリーはアドバンテージを適用することなく速やかに試合を停止する。			
	判定に対する異議、相手の反則のアピール、相手への礼を失した言動等、スポーツマンシップを損なう行為は厳禁である。			
ペナルティキック及びフリーキック	すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側はタップキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点からゴールラインに平行して少なくとも5m下がる。			
	反則の地点が相手側ゴールラインから5m以内の場合は、マークは反則の地点を通る線上、ゴールラインから5mの地点でタップキックを行う。			
	フリーキックも同様である。			
補足	防御側のスクラムオフサイドラインがスクラムより3m下がっていることをいいことに、スクラムからボールが出る前に攻撃側のプレーヤーが後方より勢いをつけて走り込み、ハーフバックからフラットなパスを受けて突進を試みるプレーは、PKまたはFKにおけるいわゆる「キャバルリー・チャージ」相当し、競技規則に反するプレーである。→相手ボールのPK	スクラムからの「キャバルリー・チャージ」に相当するプレーを罰則対象とはしない。これは、攻撃側にも、スクラム最後尾から3mのオフサイドラインが設けられているためである。したがって、このようなプレーは起こりえず、起きた場合は、オフサイドの反則である。		
	スクラムを組んだ後、フッカーの右足の前にボールを置くようにレフリーは指示する。(低学年、中学年)			
	スクラムはレフリーの4段階(クラウチ・タッチ・ポーズ・エンゲージ)の声で組ませる。			
	【用具について】●スパイクを使用する場合、プレーヤー及び指導者の靴底は非金属製の固定式スタッド及びブレードタイプのものとし、取替え式スタッドの使用は禁止します。●ショルダーパットの使用は禁止します(平成12年通達)。●マウスガードを使用する場合、歯科医の監督指導のもとで作製されたものを使用。			
指導者	試合中、コーチは定められた区域内に位置し、プレーヤーに対して指導的な指示、助言を行える。ただし、子どもの自主性、判断力、応用力を養うことからヒステリックに怒鳴ったり、子どもの人格を否定するような言葉を発したり、レフリーの判定に異議を唱えたりしてはならない。上記のような言動が見られた場合、レフリーはそのコーチを退場させる。退場を命じられたコーチは、速やかに競技場から離れなければならない。			
	試合中、各チーム1名のコーチがグラウンドに入ることが許される。グラウンドに入ることが許されたコーチは、自軍の最後尾のプレーヤーより後方で留まり、プレーヤーに対して円滑なゲームの進行の為、助言を行える。			
	コーチの不行跡により試合が停止した場合、試合再開は、スクラムで行い、プレーの停止が命じられたときにボールを保持していた側がボールを投入する。レフリーはコーチに注意以上の処分を与えた場合、試合終了後速やかに主催者側にその旨を報告する。			

レフリー タッチジャッジ		ELV11の導入に伴い、スクラム時のタッチジャッジのポジションについて、基本として以下とする。ラインアウト時の立ち位置と同じポジションとする。つまり、スクラムのポイントに近い方が攻撃側、遠い方が防御側を確認する。ポイントが中央付近の場合は、チームの左側のタッチジャッジが確認する。
	子どもたちが楽しく・正しくラグビーをプレーできる環境を作るのがミニラグビーのレフリーの役割です。したがって、ゲーム中の事実を判定するだけでなく、ミニラグビー指導者としての立場が要求されることを認識してください。	
	レフリー、タッチジャッジは、中立的立場であり、どちらのチームに対しても助言等をしてはいけません。但し、危険なプレー、オフサイド等の反則を予防する為の指導は除く。	
	ハーフタイムは、ハーフウェイライン付近にとどまるよう努める。試合が始まったら、コーチではなくレフリー、タッチジャッジとしての行動を優先する。	
	プレーヤーに敬意を表すためにも、清潔でレフリーにふさわしい服装、毅然とした態度、親しみやすい言葉遣いと表情を意識してください。	
	ノーサイドを宣した後、双方のチームに対し、意欲を喚起するような励ましの言葉をかけてあげてください。	
	試合後は、必ず双方のコーチと危険なプレー、好ましいプレー等について、共通の認識が持てるよう意見交換をしてください。	
	レフリー、タッチジャッジのスタイルについて。公式戦はもちろんのこと、交流試合においてもきちんとしたスタイルにてゲームのジャッジに望むべきである。襟の付いたタイプの上着の着用、ストッキング、スパイクの着用は最低のルールと考える。(極寒時等は、タッチジャッジのウィンドブレーカー等の着用は可能)。Tシャツ、短い靴下等の着用によるレフリーは慎むべきである。相応しくないスタイルにてジャッジを行う事は、一生懸命プレーをしている生徒達に対し、失礼であるとの気持ちを持つ事が必要である。	

その他について

●プレーヤーの安全対策として(全学年対象)
第16条 ラック プレーヤーは、ラックの中で故意に倒れたり、崩してはならない。【安全対策】
第17条 モール プレーヤーは、モールを引き倒して防御することは出来ない。【安全対策】
●3.4交代/入替えのプレーヤーとして指定されたプレーヤー(全学年対象)
交代/入替えのプレーヤーの数は、各協会主催の大会基準に準ずる。ただし、コーチおよびレフリーは、試合毎に登録されたプレーヤーを全員出場させる様配慮しなければならない。
●3.10 一時的交代と応急処置
出血の有無に関わらず、プレーヤーが負傷し応急処置、或いは医師の治療を受ける必要があると判断際の一時的交代・正式交代については、各協会主催の大会規則に準ずる。
●試合時間について
低学年 10分ハーフ以内(1日の試合総時間は原則40分以内とする) いずれも試合間隔は環境に配慮して十分な休息時間をとらなければならない。
中学年 15分ハーフ以内(1日の試合総時間は原則50分以内とする) いずれも試合間隔は環境に配慮して十分な休息時間をとらなければならない。
高学年 20分ハーフ以内(1日の試合総時間は原則60分以内とする) いずれも試合間隔は環境に配慮して十分な休息時間をとらなければならない。
ハーフタイム後、サイド交換をする。休息時間は各協会主催の試合基準に準ずる。/トーナメントで引き分けの場合でも、試合を延長してはならない。(全学年共通)
●第9条 得点方法
9.A.1 トライ : トライは攻撃側のプレーヤーが相手側インゴールにおいて、最初にボールをグラウンディングする事によって得られる。(価値 : 5点)
●19.2 クイックスローイング
クイックスローイングは認めない。(中、高学年) 低学年はラインアウトは無い

2016年度 ルール適用確認事項について

●ボールが、ノックオンまたはスローフォワードによりタッチに出た場合、反則をしなかった側に、①ボールがタッチラインを超えた地点でのラインアウト、または、②ノックオンあるいはスローフォワードが起きた場所でのスクラムの選択肢が与えられる。
●以下の場合、ダイレクトタッチとなり地域が得られず、キックした地点で相手側にスクラムが与えられる。ただし、10mラインが明確に示されていない場合(ラインが無く、コーン等で示されている場合等)、その限りでは無く、試合主催者が適用の可否について決定する事が出来る。
①チームがボールを自陣の10メートル区域内に戻した場合 防御側のプレーヤーが10メートル区域外でボールをプレーし、相手側のプレーヤーに接触することなく10メートル区域またはインゴールエリアにボールが入り、相手側のプレーヤーに触れるか、タックルが行われるか、ラックまたはモールが形成されることもなく、そのプレーヤーまたは味方のプレーヤーがボールを直接タッチにキックした場合地域獲得は得られない。
②片足または両足が10メートルラインの内側にあるプレーヤーが、10メートルラインの外側で止まっているボールを拾い上げて直接タッチにキックした場合、ボールを10メートルラインの内側へ戻したことになり、地域獲得は得られない。
③ 防御側のチームがスクラムまたはラインアウトからボールを自陣の10メートル区域に持ち込んだ場合 防御側のチームが自陣の10メートル区域外でスクラムまたはラインアウトにボールをスローインし、その後ボールが相手側のプレーヤーに触れずに自陣の10メートル区域内に戻され、そのボールが相手側のプレーヤーに触れるか、タックルが行われるか、ラックまたはモールが形成されることなく、防御側のチームがボールを直接タッチにキックした場合、地域獲得は得られない。
●ノックオンの定義に新たな条文が追加された 相手にタックルをしたプレーヤーがボールに触れ、そのボールがボールキャリアーの手から落ちて前に転がった場合は、ノックオンとみなされる。プレーヤーが、相手の手からボールをもぎ取ったり故意にたたき落としたりして、そのボールがボールキャリアーの手から落ちて前に転がった場合はノックオンとはみなされない。